**宇土櫓**

江戸時代（1603–1867）の熊本城には5階建ての櫓が5棟ありましたが、そのうち唯一現存するのが宇土櫓です。高さ21mの安山岩の台座の上に建つ高さ19mの櫓は、日本一高い櫓であるだけでなく、姫路城、松本城、松江城の天守に次ぎ、現存する城郭建築物の中で全国第4位の高さを誇っています。その大きさと古さから「熊本城の第三の天守閣」という呼び名が付けられています。2016年の地震では漆喰の壁や床が破損し、石造りの台座の一部が大きく座屈するなどの被害を受けました。他にも「続櫓」と呼ばれる、宇土櫓と南側で繋がっていた長い低層の建物も全壊しています。